２０２６年度第１回町田市観光まちづくり推進委員会　会議録

○開催日時　　２０２６年１０月２７日（火曜日）９時１５分～１０時４０分

○場　　所　　町田市庁舎　９階　会議室９－３

○出 席 者　　出席委員：　西田司委員長（オンライン参加)、
安達廣美副委員長、
川原晋委員（オンライン参加)、
富田莉莉委員、齋藤大典委員、近藤和弘委員、
安本達式委員、高梨光之委員
欠席委員：　和田圭司委員
傍聴者　：　なし
事務局　：　経済観光部長、観光まちづくり課長
他事務局３名

○資　　料
１　　町田市観光まちづくり推進委員会設置要綱
２　　町田市観光まちづくり推進委員会委員名簿
３　　「町田市観光まちづくりリーディングプロジェクト２０２７」骨子案
４　　観光まちづくりリーディングプロジェクト２０２２各指標の進捗

○次　　第

１　挨拶

経済観光部長・塩澤直崇より挨拶

２　町田市観光まちづくり推進委員会について

・委員会概要説明及び委員紹介

３　議題

（１）「町田市観光まちづくりリーディングプロジェクト２０２７」策定に向けた骨子案について

資料３に基づき、事務局から説明

委員からの主な意見等

【コンセプトについて】

・「国内外からの来訪の促進」及びターゲットについて、やや漠然としている印象がある。遠方とあるが、どこの地域なのか、何をフックにするのか（例：ＦＣ

町田ゼルビア（以下、「ゼルビア」）などのコンテンツ）など決め、フックにできるものを活用し、ターゲットに結び付けるのはどうか。

・町田から箱根や新宿などその他スポットに行ってもらうことを含め、町田を目的地にしてもらえる取組が必要である。

・町田のファンづくりの取組として、町田市民以外にもゼルビアファンが多く、町田に愛着を持っている人もいる。そういった方に、試合以外でも町田に来てもらえるとよい。
ゼルビアやペスカドーラ町田には外国人選手も所属している。そういった方が町田の魅力を発信すると、町田のファンづくりにつながるのではないか。

・「国内外からの来訪の促進」とあるが、プロモーションや商業的な面に注力する印象を受ける。目指すべき将来像に「友を招き」とあり、住む人にとってよい環境づくりのために観光施策を行う必要があるのではないか。
リピーターづくりや、すでに来訪されている方・住んでいる方の満足度を高め、楽しみ方を伝えていくことに取り組んでいくのはどうか。

・「観光のイメージがない」という声があるが、全方位的なプロモーションを実施するのは難しい。例えばゼルビアの試合観戦等で来訪する方に対して施策を行ったり、愛着度を高めていく取組をするのはどうか。

【ターゲットについて】
・現時点で、芹ヶ谷公園（ポケふた）やリス園に外国人の方の来訪があり、来訪者が魅力を発信している。
・訪日外国人だけでなく、町田在住の外国人も、ターゲットに含め、そういった方に町田で体験できることを発信してもらうのはどうか。

・日本在住の外国人が選ぶ「住みたい町ランキング」では、都内では町田市が１位である。大学など学術機関が多いこと、国際色が豊かなこと、という意見が多く挙がっている。
そういった方にも楽しんでもらえるように、訪日外国人だけでなく、町田に住んでいる外国人もターゲットに入れるべきではないか。

・近隣に外国の方も多くいるが、現状では地元の町内会でコミュニケーションが図られていない。まずは、地元の町田市民がこの現状を理解し、様々な国籍の方と親密なコミュニケーションを図り、そこから知り合いを呼んでもらうということも考えてほしい。

・これまでは、市民及び近隣在住の方をターゲットにしていた。ゼルビアの試合が行われると、アウェーチームの応援で遠方から町田市に来訪する人もいる。
そういった来訪のきっかけやフックがある人たち向けに、サービス等を提供していくのはどうか。
また、ACLE 等への参戦により、アジアチームのサポーターが来訪する機会もあるので、こういった方を対象に取組を始めていくのはどうか。
突出した選ばれる理由がないと、インバウンドはない。日本らしさを求めて観光している外国の方もいるので、町田にはこんな景色がある、などアピールし、町田がいいところだと思っていただけるようにする必要がある。

・「町田のイメージがない」、「観光のイメージが定着していない」という声がある中で、目指すべき将来像である「おすすめしたくなる」を目指すのには、どうすればいいのか、どう組み立てていくかを考えることで、施策につながっていく。
町田の魅力として、ゼルビア、商店街の魅力的な飲食店などが挙げられるが、これ以外にひとつ魅力となるものを決めて発信していくのはどうか。

・ターゲットは町田周辺に住んでいる人に加えて、その友達くらいでよいのではないか。

【取組について】
・小田急線沿線では、箱根や江の島、鎌倉にインバウンドが集中しており、他のエリアにも乗降してもらえるようにしたいと考えている。
外国からの来訪者は、インフルエンサーが紹介したものをなぞる傾向があるので、市としてメインにＰＲするものを定めて、インバウンドの取組を実施すると効果的ではないか。
また、アニメ好きも多いので、町田市には都心と同じような店舗や施設もあることから、そういった点を飲食やイベント等と結びつけて展開するのはどうか。

・「遠方から来訪者をターゲットに」とあるがモデルコースの設定や発信ができれば、そういった方にも町田の楽しみ方を提案できるようになる。
そうした取組ができれば、満足度につながり、将来的にはリピートにもつながっていくのではないか。

・街の中で楽しめるもの、例えば野菜などの収穫体験等があると外国人の方も魅力的に感じるのではないか

・観光大使制度等の新たな情報発信方法の導入の検討について、芸能人などを任命すると、費用面やスキャンダルなど懸念点も挙げられるので、例えばアニメキ

ャラの活用などもある。町田のファンづくりのひとつとして、一般の方にも広げると実施しやすいのではないか。
・観光案内等受入れ体制の見直しと検討の中で「訪日外国人受け入れ態勢」とあるが、２０２７年３月から開催される園芸博だけでなく、そのレガシーなどを意識した書き方になっていればよいのではないか。

・町田駅前だけでなく、相原や小山など堺地域の市内各エリアでも大きなイベントを実施している（例：おや GAO フェスなど)。それぞれの地区が実施しているイベントをサポートしていくのはどうか。

・担い手と態勢づくりについて、外国の方はスポーツのイベントを実施すると参加する印象がある。世界の遊びができる場所を提供するのはどうか（例：モルック)。

・ナイトタイムエコノミーについて、すでに町田シバヒロでのナイトマルシェや、酉の市の開催時間の延長などを実施している。すでに実施されている取組の効果等を共有できれば、今後の施策にもつながっていくのではないか。

・アニメやスポーツのコンテンツを活用するのはよい。小田急でも、アニメを活用したスタンプラリーを実施したところ、観光スポット等へ導線をつくることができたため、一定数のターゲットに対しての効果はあるのではないか。

・ナイトタイムエコノミーの取組は、町田市のホテル宿泊者のうち約６割を占めるビジネス利用の来訪者もターゲットにすることができる。
・観光大使の取組について、町田のファンづくりの観点として、市民の方などのファンが紹介できる仕組みづくりができるとよいのではないか。（例：高知県観光特使）

・町田市の「団地」について、観光施策から、団地の魅力向上のアプローチをするのはどうか。

【その他】
・観光の視点からの課題しか記載されていない。まちづくりにとっての課題があり、その中で観光としてできることを捉えていく必要がある。観光の施策をとおして、すでに来訪している・住んでいるひとの満足度を向上させることで来訪の促進につなげることや、日本人・訪日外国人も含めコミュニケーションが取れる場所にしていく、という視点が必要ではないか。

（２）第２回観光まちづくり推進委員会の開催について
　事務局から説明

４　その他

リーディングプロジェクト策定のスケジュールについて事務局から説明

以　上